

第 78 回全国植樹祭高知県準備委員会（第 1 回） 議事概要（抄）

■日 時：令和 6 年 9 月 3 日（火） 15：00～16：30

■場 所：高知会館 3 階「飛鳥」

開催理念に盛り込むべきキーワードについての意見交換の概要

【主な意見】

- 戦後植栽された森林が成熟期を迎えるなか、「森林資源の循環利用」と「未来に引き継いでいく」というのは重要なキーワードと思う。また、災害が激甚化する中で、「森林資源は国土強靱化に向けてなくてはならない資源」であるので、こうした部分も盛り込んだら素晴らしい大会の理念になるのではないか。
- こうち山の日宣言「県民一人ひとりが森林を守る活動に参加し、自らも行動して、山を守り育て、次代へ引き継ぐ」は、大会開催までの様々な緑の取組に多くの県民が関わる中で、全国植樹祭の意義をつかみ、緑に関心が向くように県民の意識が変わっていく期待が持てる。
- 「森林整備を推進して脱炭素社会の実現に貢献していく」ということをしっかり入れていただきたい。また、県を挙げて取り組む原木生産を増加していくためにも、「山の担い手の確保」を図っていくという姿勢を見せていく必要があるのではないか。
- 木材の循環利用というのが一つの方向感と考えており、その点で「経済と環境の好循環」や「再生林の推進」といった表現がキーワードになると思っている。
- 岡山県大会での天皇陛下のお言葉にあった「伐って、使って、植えて、育てる」のように、「循環」という言葉がキーワードになるのではないか。あと、人は、森や自然と共に生き、また生かされていると思うので、「共生」という言葉も入れてはどうか。
- 中山間地域には、山に興味を持ち、農業あるいは勤めながら木を伐り出している若者がたくさんいる。そうした若者たちを後押しできるような大会になればと思う。
あと、山に咲く花桃や桜を目掛けて過疎地に人々が出向き賑わうのも、山の良さの一つ。大会を通じて地域に花を付ける樹木の植栽が行われると、「元気で豊かな、そしてあったかい高知県の実現」につながると思う。
- 禿げ山の前には魚がないという現状がある。漁業者が山の恵みを楽しむ上で、「森林の整備」が一番大事である。

- 森林と今日の異常気象との関わりを伝えることができればと思う。また、子供たちや子供連れの方が遊びに行きやすい森林が多くあると、小さいときから木に親しむ体験ができる。森林が子供の教育の場として必要であると思う。
- こうち山の日宣言のほか、「再生林の推進」に関して他の委員からお話のあった「共生」や「防災」といった言葉は非常に大事だと思う。

あと、知人の県内大学農学部の元教授は県外出身者だが、他県にはない素晴らしい樹木がある本県の山が好きで、退職後も高知に残っている。こうしたプロが魅力的に感じる森林が本県にたくさんあるということもキーワードに入れられたらと思う。
- 森林について県内外の方に遊びとして体験していただき、その中で森林に対する課題にも気付いてもらうようなことができたらいいのではないかと思う。キーワードに「歴史、文化、自然」といった言葉を取り入れてもらえればと思う。
- 若い方の中には、山に興味を持っている人が一定いる。ひとり一人が山を守り、次世代に引き継いでいくという姿勢が大事だと思う。また、他の委員からお話があったように、県外出身の私から見ても本県の山は多様性が豊富で、川と海とともに素晴らしいと思っている。山に木を植えることで川も海も守られていると感じている。
- 同様に、開催理念は、山があるから川や海があるイメージで作っていただけたらと思う。

また、全国植樹祭をきっかけに、高知県がどう変わっていかなければならないのかというメッセージが必要。このメッセージでは、街の人に山や木材に注目をしてもらうことが大事である。木材利用が進んでいく中で人口流出が進む中山間地域が注目され、街の人々が応援をしていくような、山と街が共生する視点を入れると良いのではないか。山があれば川や海、街があるというところをどう結んでいくのかという点にスポットを当てるとよい開催理念ができると思う。
- 町村では、森林資源をどう活用していくのかという悩みを抱える中で、レジャーなど、山の魅力を広く知ってもらうための人を呼び寄せる取組を進めているところ。次の世代につなげるためにも、子供たちに山に関心を持ってもらえるよう、山を知り山で遊ぶといったことをしていただきたいと思う。